《混沌》への向き合い方

《混沌》

◆　今，自分がいる状況や局面をどのように捉えるかは，かなり難しいテーマだと思っています。身近な人間関係・職場関係の中での状況や局面の捉え方自体にも難しい面があり，世界的・国際的な状況や局面をどのように捉えるかも，極めて難しい面を有しているとも言えます。何が《事実》で，何が《真実》なのかを見極めることさえも不可能なのでは・・と思う状況が続いています。まさに，《先行き不透明な混沌の時代・状況》だと言えます。

◆　また，そうした中で，さらに自分自身をどのように捉えるかも，なかなかに難しい面があります。自分を《小さく捉え過ぎる》ことでより苦しい思いや不安になる人も多くいることと思いますし，自分を《大きく捉え過ぎる》ことで周りとの人間関係が円滑に行かなくなる人も多くいることと思います。

《異なる視点との対比》

◆　事象や課題等の価値や意義を評価する場面では，「黒白二元論」「黒白灰色三視点論」「ルーブリック評価」など，どの観点から見るかが大事になりますが〔参照：★こだわりメモ＞【10】正解のない課題の評価基準〕，混沌とした時代・状況に対して，ここでは見方・捉え方の視点として，視点自体の対比を試みてみることにします。

▼地球温暖化が進行して，南極の氷やシベリアの永久凍土さえもがが融解して海水面の上昇，環境破壊が一層進展し，世界各地で森林火災・異常気象などが激増し，人類の生存自体が脅かされることになっているのではないか・・・。

▽地球の寒冷期・温暖期のサイクルや数万年単位の気候変動と２０世紀後半からの地球温暖化は　異質の次元（温室効果ガスの影響）と言われているのは科学的な真実性は高そうだが，人類はそれを克服できる叡智を持っているのでは・・・。

▼ロシアが国家的なサイバー攻撃を他国に仕掛けたり，中国が覇権・膨張主義で国際ルールを無視したり，アメリカが自国第一主義を掲げて国際協調を否定したりして，強国の自己都合の「悪事」を他の国々はどうしようも無い状態なのではないか・・・。

▽古代から現代まで，その時々の強国が自己都合の「悪事」を行ってきたのは枚挙にいとまがないほどあり，今の状況に特別性はない。どの時代・どの状況もその場面では《混沌》だったのであり，やがて必ず栄枯盛衰の「歴史の必然」を迎えることになる。

▽今までも「噂」は多くの人を苦しめてきた。SNSは空間を越えて多くの仲間と繋がることができ，個別の絆を深めることもできるので，結局は便利な道具を使う人の側の在り方の問題であり，より個性やマイペースが認められる状況にもなりつつあるのでは・・・。

▼テレビやSNS等でフェイクニュースさえも公然と語られ，「多数意見」として大きな影響を及ぼし，同調主義は圧力となって個人を狙い撃ちするまでになり，その裏で，現代特有の息苦しさ，孤立感は肥大化して多くの人を苦しめているではないか・・・。

▼これから先がどのような社会状況になるのか，自分の役割や居場所が見出せるのか不安である。社会経験も乏しく，自分が何者でどれくらい力があるのかも分かりにくく，何をしたら良いのかなかなか明確にならない・・。

▽これから先のことは，当然ながら未知の領域であり，現時点で決まっていること・明確なことは皆無なのだから，自分の価値観や考え方を整理して，判断して，大事だと思えることにチャレンジすること自体が「根幹的な生き方」なのでは・・・。

《混沌への向き合い方の村上の捉え方》

◆　社会全体や身の回りのできごとも，「起きている事実」はあるにしても，そのことがどのように捉えられ，どのように何のために伝えられていくかには既に《価値軸に基づく判断》が働いていて，《情報と呼ばれる異質なもの》に変質していると言えます。また，人の集団である社会（国家・政治・経済・教育・文化・生活など）における人の活動自体も《価値軸が介在するコミュニケーション・情報》によって成り立っており，変質や意図が介在するのは必然だと思われます。

◆　そうした中で，情報の発信者にも受け手にもなる「主体(自分自身)」は，日々の活動・生活の場面・局面においては，「できごとや情報」に対して一面的に受けとめたり判断したりするのではなく，《異なる視点を同時に思い浮かべること》ができれば，より自分の考え方を深めたり，根拠的な判断軸・検証軸などから考え方を整理できたりすることになるものと思っています。

**◎　自分の《原点》を様々な視点から捉えてみる**

自分の価値や意義をどのように捉えるか（自己有用感・自己肯定感など）の大前提に，人としての命と良さ（意義・価値・個性）があること。自分には，自分であることの事実として他と比べることができないもの（意義・価値・個性）があること。同時に，時間的にも空間的にも有限性があることが自明のこととしてあること・・・など。

**◎　世界や社会で起きていることの「事実や真実に近いこと」について《知見を拡げる》**

今の自分の日常生活とは距離のあるできごとについても，ニュース性の高いものなど可能な範囲で知ること・受けとめてみることに努めることは大事なことだと思っています。考えたり判断したりする前段として，広い視野を身に付けることや高い視点から捉えることに努めることは重要なことだと思っています。そのできごとなどについての価値付けや自分の意見・考え方を明確にするのは「二の次」にして，まずは「事実や真実に近いこと」について知ること・受けとめてみることが大事になると思っています。

**◎　場面判断・選択・決断と継続的な努力があっての振り返り（評価）が大事になる**

日常的な場面でも，少し大きな選択・決断の局面でも，自分が考えてみて，自分の価値・意義を高めると思えることに，チャレンジ心を持って目標設定（目標の明確化や方策・手立てを計画・イメージしてみること）して，判断・決断したら，継続的に努力することが大事だと思っています。村上の経験則からは，人生において《ものの弾み・行き掛り》が結果として大きな要素や役割を担うことは多々あることと思っていますが，それらは予測・計算して出会えるものではないので，できること・すべきこととしては《継続して努力すること》だと思っています。一定期間の継続努力があってはじめて中間評価・成果評価が可能になり，目標や行動計画の見直しや仕切り直しも有効になるものと思っています。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（令和2年10月22日）